

町田市長  
石坂 丈一 様

**2020年度**  
**町田市環境マネジメントシステム**  
**外部評価報告書**

( 評価対象年度 : 2019年度 )

2020年10月5日

町田市環境マネジメントシステム  
外部評価委員会委員長 松波 淳也

# はじめに

町田市では、市職員が率先して地球温暖化の防止に取り組むため、「町田市第4次環境配慮行動計画（地球温暖化対策実行計画「事務事業編」）」（以下「第4次実行計画」）を策定し、削減目標を掲げ、市役所自らの事務事業に伴って排出される温室効果ガスの削減に職員全員で取り組んでいます。さらに、廃棄物の削減や省資源等の環境負荷低減の取り組みも行っています。これらの取り組みを推進する仕組みとして「町田市環境マネジメントシステム」を構築し、運用しています。

町田市環境マネジメントシステムでは、運用状況と実績を客観的に評価することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成された「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置しています。

本報告書は、2020年度に実施された外部評価結果をまとめたものです。

# 目次

<b>1. 外部評価の方法等</b>	<b>3</b>
(1) 外部評価委員会の構成	3
(2) 評価対象	3
(3) 評価内容	3
(4) 実施方法	4
(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等	4
<b>2. 外部評価委員会の実施日時および実施内容</b>	<b>5</b>
<b>3. 外部評価結果</b>	<b>6</b>
・ 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	7
・ 資源（廃棄物・紙）、グリーン購入達成率	8
・ エコオフィス活動（職員共通・施設担当部署）	10
・ 環境法令の遵守	11
・ 内部環境監査	12
<b>4. おわりに（まとめ）</b>	<b>13</b>

# 1. 外部評価の方法等

2020年度の外部評価委員会は、8月から9月にかけて計2回、市民や事業者、学識経験者9名で構成された外部評価委員による環境マネジメントシステム外部評価を実施しました。

## 2020年度 外部評価委員会

### (1) 外部評価委員会の構成

- ① 構成：市民3名、事業者3名、学識経験者3名の計9名の委員で構成
- ② 任期：2年（現委員の任期は2020年6月から2021年9月）

### (2) 評価対象

- ① 組織：全庁全課（市立の小中学校を含む）
- ② 活動：「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

### (3) 評価内容

#### 2019年度の活動に対する評価

- ① **環境パフォーマンス**  
温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量等のパフォーマンス
- ② **環境活動状況**  
各職場におけるエコオフィス活動、内部環境監査結果および活動状況

#### 評価項目

評価項目	評価内容	評価基準	評価内容
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・目標達成状況 ・経年変化状況	5	評価できる
資源（廃棄物）、資源（紙） グリーン購入達成率	・経年変化状況	4	概ね評価できる
エコオフィス活動（職員共通） エコオフィス活動（施設担当部署）	・各職場の活動状況	3	普通
環境法令の遵守	・自己点検結果 ・是正対応状況	2	あまり評価できない
内部環境監査	・監査結果 ・是正対応状況	1	評価できない

# 1. 外部評価の方法等（つづき）

## (4) 実施方法

項目	具体的内容
① 基礎情報の提示と説明 （第1回外部評価委員会）	事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す（5）の文書および資料を第1回外部評価委員会（書面開催）にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
② 質問・意見徴取	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を精査し、評価に向けた質問や意見を事務局に提出する。
③ 評価方法の説明 （第2回外部評価委員会）	事務局は、外部評価委員からの質問・意見をとりまとめ、第2回外部評価委員会（書面開催）にて提示し、評価方法を説明する。
④ 評価の実施	外部評価委員は、事務局より提示された文書および資料を基に（3）の評価項目ごとに評価基準にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
⑤ 外部評価報告書のとりまとめ	事務局は、評価結果をとりまとめる。 外部評価委員会は、すべての評価結果を精査し、外部評価報告書としてとりまとめる。

## (5) 外部評価委員会に提示された文書および資料等

- a. 2019年度町田市環境マネジメントシステム実績報告書
- b. 環境マネジメントシステム第三者評価報告書
- c. 2019年度内部環境監査結果報告書
- d. 2019年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- e. 2019年度町田市環境マネジメントシステム市長総括記録
- f. 上記文書および資料に関連するデータ等

## 2. 外部評価委員会の実施日時および実施内容

2020年度の外部評価委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う感染防止対策のため、例年の会議形式ではなく、書面による開催としました。実施時期及び内容は下表のとおりです。

区分	日時	内容
第1回評価委員会 (書面開催)	8月12日	(1) 2020年度外部評価の進行について (2) 環境マネジメントシステムの実績報告について
質問・意見 徴取	8月12日 ～ 8月17日	各委員からの評価に向けた質問・意見徴取
第2回評価委員会 (書面開催)	9月11日	(1) 2019年度実績に対する評価について
評価	9月11日 ～ 9月18日	各委員による評価の実施
外部評価報告書 とりまとめ	9月18日 ～ 9月29日	評価結果のまとめと市への提言

### 3. 外部評価結果

外部評価委員による各評価項目ごとの評価点（平均点）は次のとおりです。

エコオフィス活動（職員共通）、エコオフィス活動（施設担当部署）、内部環境監査が 4.0 点と高めの評価となり、環境法令遵守が 3.0 点と低めの評価となりました。

評価項目	評価内容	評価点（平均点）
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・ 目標達成状況 ・ 経年変化状況	3.8
資源（廃棄物）、資源（紙） グリーン購入達成率	・ 経年変化状況	3.4
エコオフィス活動（職員共通）	・ 各職場の活動状況	4.0
エコオフィス活動（施設担当部署）	・ 各職場の活動状況	4.0
環境法令の遵守	・ 自己点検結果 ・ 是正対応状況	3.0
内部環境監査	・ 監査結果 ・ 是正対応状況	4.0

#### 評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

### 3. 外部評価結果【温室効果ガス排出量・エネルギー使用量】

評価項目ごとの評価点（平均点）及び主な評価意見は次のとおりです。

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス 排出量・エネ ルギー使用量	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 2019年度は2018年度に比べて夏は気温が高く冬は気温が高かったこと、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2020年2～3月のエネルギー消費量が落ち込んだ等、温室効果ガス排出量、エネルギー消費量の低下傾向が働いている状況下での実績値としては、高パフォーマンスが達成されたと評価はできない。</li> <li>◆ （上記と同様の意見から）第4次環境配慮行動計画の目標達成が確実視できるような状況であるとはいえない。また、パリ協定を受けて、国内削減目標として2030年の26%削減（2013年度比）、さらには2050年の実質排出ゼロが掲げられるなか、町田市の事務事業からの排出量についても現行の環境配慮行動計画が掲げる目標値のみを達成すれば良いというものではなく、その先にはより野心的な目標値の設定が求められることになるであろうことを考えると、いかにしてどこまでの削減を図っていくのかに係る中長期的なビジョンのもとに臨んでいく必要があると思われる。</li> <li>◆ 今年度の評価については、新型コロナウイルスの影響を大きく受けていることを考えると、評価がしにくい。変化状況としては、エネルギー使用量が減少しているので数値的には評価につながると思う。</li> <li>◆ 温室効果ガスの排出量は昨年度に比べて減少している。部門ごとに見ると取り組みを強化すべきところもあり、今後に期待したい。</li> <li>◆ 電力契約については、市有施設全体で新たな統一的な基準を構築し、2019年度から環境に配慮した電力調達を全庁的に実施しており、排出係数のより低い事業者への変更や中小規模の施設における新たな電力事業者と契約締結が進んだことなど、具体的な成果も出てきているようで、前向きかつ先進的な取り組みとして評価できる。</li> <li>◆ 小中校の灯油ストーブを空調に更新、市民病院のコージェネレーションシステムが（削減に）貢献している。</li> </ul>



### 3. 外部評価結果【資源（廃棄物・紙）、グリーン購入達成率①】

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（廃棄物） 資源（紙） グリーン購入 達成率	<b>3.4</b>	<p><b>資源（廃棄物）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 夏の大型台風の影響を受け、汚泥等の処分量が大幅に増加したため、目標未達成となっているが、温暖化の影響で近年の台風被害は慢性化してきているので、目標値の設定について、この点も考慮に入れて見直した方が良いのではないかと。</li> <li>◆ （上記と同様の状況から）通常の業務にともない平時において排出される廃棄物と、いわば不可抗力で発生してしまう災害廃棄物とは分けて集計したほうが良いと思われる。</li> <li>◆ 大型台風の影響による汚泥等の処分が発生しなかった場合、排出量は1998トン（2015年度比9.1%減）、再利用率は61.7%（2015年度比6.3%増）と推定されることと、2015年度比3.1%増ではあるが「4：概ね評価できる」と判定した。</li> <li>◆ 廃棄物の排出量は前年度よりも減少したが、基準年度よりも高い水準にあり、また再利用率も低下している。大型台風の影響等もあるのでやむを得ないところはあるが、取り組みを強化していく必要があると考えられる。</li> <li>◆ （実績報告書P9において、資源の評価は廃棄物と紙をあわせて行っており、廃棄物が増加しているものの）紙が大きく削減されているため評価点を4とした旨の注記があるが、紙は2015年度の数値との比較は参考値で比較値として扱うことは適切ではないと示されていることから、注記は見直した方が良いと考える。</li> </ul>

### 3. 外部評価結果【資源（廃棄物・紙）、グリーン購入達成率②】

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（廃棄物） 資源（紙） グリーン購入 達成率	<b>3.4</b>	<p><b>資源（紙）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 小中学校以外（市役所、病院等）において、紙購入量削減努力の成果がみられる</li> <li>◆ 紙資源の削減を含め総じて評価できる。とはいえデジタル化で大きく下げられる分野であり、国の動きも含め今後に期待したい。</li> <li>◆ 小中学校でも「GIGAスクール構想」※でのパソコン等の配備が各人に行われれば、紙購入量は減少となる。自治体の早期納入を期待。</li> </ul> <p>※児童生徒に1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する構想</p> <p><b>グリーン購入達成率</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グリーン購入達成率の低下に関して、改善策を展開していくべきである。取引先で適合品を扱っていなかったケースが多かったとのことであるが、そのような場合は、分母から取り除く評価を併記する方が良いのではないかと。</li> <li>◆ 非適合品購入の理由「その他」として、取引先で適合品を取り扱っていなかったことや意識せずにグリーン非適合品を購入していたことが挙げられており、こうしたケースでは改善の余地があるものと思われる。</li> <li>◆ 予算や品質等の問題があることは、企業で働いているものとして理解できるが、グリーン購入達成率が低下している結果を踏まえると、厳しい評価をせざるを得ない。</li> </ul>

### 3. 外部評価結果【エコオフィス活動（職員共通・施設担当部署）】

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動 (職員共通)	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全庁評価が若干低い項目があるものの、地道なこまめな取組努力がなされており、職員のなかにエコオフィス活動が浸透していることがうかがえる。</li> <li>◆ 12個ある活動別評価項目のうち、7項目が職場平均で4.2点を上回っており、それ以外の項目も3点を下回る項目は発生していないことから、職場によっては課題が残るものの、概ね評価できる。</li> <li>◆ 取り組みに工夫が見られ全体的に意識の高さが感じられる。国や都のデジタル化が進めばさらに改善ができると思われる。</li> <li>◆ 低評価の項目多く研修含め、意識の向上を期待する。</li> <li>◆ 裏紙の有効利用を増やし、不要な物品は最初から購入しないよう努めて欲しい。</li> </ul>
エコオフィス活動 (施設担当部署)	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 実績報告書P.36～38にかけて「×」がついているケース（未実施）に改善の余地があるのか、業務や施設の性質上致し方ないケースなのかを見極めたうえで、致し方ないケースについてはその理由さえ明らかになっていれば良いのではないかと。「×」の中身の精査が必要であると思われる。</li> <li>◆ 低い実施率の項目が散見されるものの、19個ある活動別評価項目のうち15項目（約8割）で実施率90%を上回っており、概ね評価できる。</li> <li>◆ 市民サービスを踏まえると、エレベーター、エスカレーターの不要時停止は難しい。できるところから、行動の改善を求める。</li> <li>◆ 全項目100%を望む。</li> <li>◆ チェックシートを基に各項目共に細かい実施がなされている。もう一步踏み込み、終業30分前に空調の停止を実施できると、かなり大きな成果が得られると思う。</li> </ul>

### 3. 外部評価結果【環境法令の遵守】

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
環境法令の 遵守	3.0	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 不適合件数80件とのことであるが、この点は看過できない問題として重大認識しかつ改善を図られたい。</li><li>◆ 少なからず法令対応の不備が見つかっており、より一層の関連法令の周知と対応の徹底が求められる。</li><li>◆ 法令に対する不備があったことから低評価としたが、昨年度と比べて件数はどうなのかが比較できれば、相対的に評価できると思われる。</li><li>◆ 2019年度より運用を開始した「環境法令遵守チェックシート」による遵守状況の自己点検の取り組み自体は評価できるものの、対象施設の3割で法令違反または違反に近い事例が報告され、うち是正済みではない件名も約3割（25件）程度あることを考慮し、「2：あまり評価できない」と判定した。</li><li>◆ 「環境法令遵守チェックシート」の運用により、不適合件数が多数確認されたが、それまで明らかにならなかったものが見えてきたのだと思われる。今後の改善につなげていただきたい。</li><li>◆ 「環境法令遵守チェックシート」を使用開始したことは、チェック項目の基準が明確になり、今後の点検にも期待ができる。</li><li>◆ 是正対応も概ね速やかになされているようではあるものの、是正済みでない案件については、未是正案件の理由の欄に理由が記載されていない部分もあり、どのような状況になっているのかが資料からはわからず、不適合状態が放置されているように見えてしまいかねない。より丁寧な説明と何よりも迅速な是正対応が求められる。</li></ul>

### 3. 外部評価結果【内部環境監査】

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
内部環境監査	4.0	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 少なからず法令対応の不備が見つかったことは、内部監査が有効に機能している証左であると思われ、評価できる。</li><li>◆ 前年度と比較して、どうだったか等の比較材料がないと判断が厳しい。</li><li>◆ 不適合や改善事項は発生しているものの、判定された事項を有する14部署に対してフォローアップ内部環境監査および委員会を実施し、年度内に適切なフォローを実施していることから概ね評価できる。</li><li>◆ 改善事項15件、不適合8件が挙げられたが、フォローアップ監査で全てが改善されていることは大きく評価できる。今後もこの状態を維持することを期待する。</li></ul>

## 4. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり、「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取り組み実績、内部環境監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れています。

本外部評価においては、数値データや点検結果をとりまとめた実績報告書及び内部環境監査結果報告書等を精査し、運用状況を確認しました。

職員の日常的なエコオフィス活動や各施設における環境配慮を意図した設備の適正管理等の取り組みは定着していることがうかがえました。今後も徹底継続するとともに、より一層効果的な工夫が図られていくことを期待します。

環境マネジメントシステムの「仕組み」については、特に以下について評価や課題が挙げられました。評価された点については継続し、課題については適切に検討・改善を図るべきと考えます。

### 目標の進捗管理 （実績報告書 P8-P9 参照）

- ・温室効果ガス排出量・エネルギー使用量においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置や市有施設の閉館・開館時間の短縮等の影響、資源（廃棄物）については大型台風の影響による汚泥等の処分量の増大等、イレギュラーな要因により、適切な評価が難しい結果となりました。不可抗力な要因等による影響については個別に把握し、その影響を排除したのものについても過年度比較を行い参考にする等、実績の評価方法に検討の余地があります。

### 環境法令の遵守 （実績報告書 P16 参照）

- ・2019年度から新たに「環境法令遵守チェックシート」の運用を開始したところ、不適合件数が80件と多数挙げられました。潜在的な課題を顕在化させ、これらを是正することにより改善が図られていくことから、仕組み自体は有効であり評価できるものの、80件は多く、看過できない問題として重大認識し、改善を図るべきであると考えます。

### 内部環境監査 （実績報告書 P17 ,P39 参照）

- ・指摘事項（不適合：8件、改善事項（改善提案含む）：15件）が検出されたものの、フォローアップ監査を実施し、全て適切に是正措置が完了されていることを確認しており、仕組みが有効に機能していることが評価できます。